

No. 347 2023年11月07日

日本共産党札幌市議団 事務局 TEL 211-3221 / fax 218-5124

市民の意見を尊重したのか市の検証が必要

10月30日 冬季オリ・パラ調査特別委員会 さとう綾委員

秋元市長は、10月11日JOCの山下会長と記者会見で「30年招致断念、34年以降の招致の可能性を探る」と発表しました。これまで、日本共産党は、市民の声で招致の是非を決めるべきだと、住民投票条例案も提案しています。

さとう議員は、市民から度重なる招致をやめてほしい、賛成でも反対でも、住民投票で意向を確認してほしいという陳情や請願が出されたが、市長は耳を貸さず、市議会は招致推進決議を共産党と市民ネットの反対があったのに自民、公明、民主の多数で可決してきたことから、「本市の認識、また市議会の招致決議と市民の間にねじれがあったのではないかと質問、市は、あくまでも「市の意向調査と、市議会の議論を重ね招致をすすめてきた」旨との答弁でした。しかし、さとう議員は、「オリパラより暮らしや除雪に予算を使ってほしい、住民投票をしてほしいというたくさんの声、同じように聞いてきたが、まったく耳を傾けず招致を進めてきたことが、問題であったと強く指摘しました。

また、34年以降については、いったん手をおろし、招致から撤退したうえで、住民投票で市民に問うべきだと求めました。そして、2013年以降の招致推進について、検証、総括は、自治基本条例に基づき、市民参加と市民意見の尊重という視点での検証が不可欠だと強く指摘しました。

オリ・パラ招致の検証 公文書に残すと答弁

10月30日 冬季オリ・パラ調査特別委員会 小形委員

冬季オリ・パラ招致特別委員会中に当局が「これまでの招致活動の検証しつつ」と答弁した事について、小形市議は「この検証は、いつ、どのような手法で考えておられるのか」と質問。里招致推進部長は「まずは11月28日から始まるIOCの理事会の動向をまず確認。その上で、関係の市議会、これまで携わってきた色々な団体の人たちと協議をして、今後どういうオリンピックを目指していくのかということと併せて検証をしたい」と具体的な日程は示さず、今後の招致と共に進めていく姿勢を明らかにしました。

次に小形市議は「招致に対して不信任や懸念を持つ市民の声を正面から受け止める姿勢に欠け、理解を押し付けるような形で、強硬に進めてきたため、市民との軋轢が生まれてきた。このたびの検証にあたっては、第三者も入れる形で公正な検証していただきたいが、そのお考えはあるか」と質問。里部長は「どういった形で検証の体制を作っていくかは、今後市議会や地元関係者の皆さんと相談しながら検討したい」と正面からの答弁を避けました。

最後に小形市議は「自治基本条例に立ち返って、その視点で検証していただきたい」と求め、「総括内容は、文書や書面でお知らせできる形を考えているのか」と質問。里招致推進部長は「当然、検証をした内容は、公文書に残して、市民の皆さんに見ていただけるような状況にすべきだと考えています」と答弁しました。